

## IV. ICTの教育的活用

京都大学では、教育の質的転換を図るために、オープンコースウェア(OCW)やMOOC等、ICTを利用した教育の推進に積極的に取り組んでいます。本センターは京都大学のOCWやMOOCの制作や運用に関する担当部局としてこれらの教育コンテンツの公開や利用を行っています。また、2015年度、本センター内に設置された教育コンテンツ活用推進委員会や関連部局との連携を通じて、OCWとMOOCの活用推進や運用等について継続的に協議を行っています。

### 1. オープンコースウェア(OCW)

#### (1) ミッションと体制

2005年から始まった京都大学OCWは、学内で実際に利用している講義教材をインターネットで公開するプロジェクトです。学内の学生、教職員、他大学の学生、関連学会の研究者、京都大学を志願する高校生、さらなる学習を志す社会人など、あらゆる方々に門戸を広げ、京都大学の講義内容を知ってもらうことを目的としています。また大学教育の情報公開の一環として、全部局のシラバスをOCWで公開しています。今後は世界へ向けて、京都大学のビジビリティを高め、また日本の文化・伝統を発信するために日本語でも積極的にアピールします。OCWは、人類の知的資産への貢献とその共有を目指して、世界各国とのコミュニケーションを高め、国際交流を推進します。

2012～2014年度は、学生が所属する18部局と事務局の2部局の計20部局の委員から構成されるOCW運用委員会において、OCWの推進、システム開発、OCW企画、OCWに関するシンポジウムの開催を行ってきました。2015年度から新たに本センター内に、教育コンテンツ活用推進委員会が立ち上がり、今後は、700以上の講義の教育コンテンツを、どのように活用するかを議論していきます。なお、OCWウェブサイトのコンテンツ制作は、教授1名、研究員2名、学生スタッフ6名で、講義収録、編集、推進を行っています。

学外との交流として、世界の300以上のOCW推進機関で構成されるオープンエデュケーションコンソーシアム(旧:国際オープンコースウェアコンソーシアム)、日本オープンコースウェアコンソーシアムに加盟しており、国内外でOCWを推進している大学や企業との交流をはかっています。



京都大学オープンコースウェアのトップページ

#### (2) 公開している講義コンテンツ

2016年度時点で公開している講義数は716講義です。その内訳は、「通常講義」が321(日 282、英 34、仏 5)、「公開講座」が262(日 215、英45、仏 2)、「国際会議」が65(日 4、英 49、仏 12)、「最終講義」が68(日 67、英 1)となっています。

部局別内訳は以下の表の通りで、京都大学の50部局がOCWを公開しており、OCWが学内に認知され積極的に利用されていることが分かります。

OCWの公開数	※括弧内は、国際会議については英語以外の内数、それ以外は日本語以外の内数			
	通常講義	公開講座	国際会議	最終講義
国際高等教育院(全学共通科目)	75 (英8)	10		
総合人間学部/人間・環境学研究科	12 (英1, 仏5)	26 (英17, 仏2)	18 (仏12)	4
文学部/文学研究科	12 (英5)	3	1	1
教育学部/教育学研究科	9 (英3)	14	2 (日1)	4
法学部/法学研究科/法科大学院	6	4		
経済学部/経済学研究科	15 (英2)	1		6
理学部/理学研究科	19	12		6
医学部/医学研究科/医学部附属病院	18 (英3)	16 (英3)	2	4
薬学部/薬学研究科	3			
工学部/工学研究科	23 (英1)	17	3	16
農学部/農学研究科	85 (英8)	3 (英1)		1

	通常講義	公開講座	国際会議	最終講義
情報学研究科	6 (英2)	1 (英1)	1	6
生命科学研究科	31 (英1)	5 (英1)	2 (日1)	1
地球環境学堂/地球環境学舎	3	1		
経営管理大学院	3	3	1(日1)	
アジア・アフリカ地域研究科				2
エネルギー科学研究科		1		1
総合生存学館/思修館		1 (英1)	6	
化学研究所		1	1	2
人文科学研究所		3	2	1
再生医科学研究所		2		
エネルギー理工学研究所		1		1
生存圏研究所		1		2
防災研究所		10		
基礎物理学研究所		4	2	2
ウイルス研究所		4		
経済研究所		3	1	
数理解析研究所		1		2 (英1)
原子炉実験所		4		
霊長類研究所		2		
東南アジア研究所		1 (英1)		2
iPS細胞研究所		4		
学術情報メディアセンター		15	3 (日1)	1
放射線生物研究センター		2		
生態学研究センター		1		
地域研究統合情報センター		1	1	1
野生動物研究センター		2		
高等教育研究開発推進センター		5	8	1
総合博物館		3		
低温物質科学研究センター		1 (英1)		
フィールド科学教育研究センター		13		
こころの未来研究センター		2		1
国際交流センター		1 (英1)	2	
学生総合支援センター		1		
アフリカ地域研究資料センター		2		
環境科学センター		1	1	
学際融合教育研究推進センター			1	
情報環境機構		3		
附属図書館		10		
物質-細胞統合システム拠点 iCeMS		18 (英14)		
安寧の都市ユニット		4		
研究国際部		3 (英1)	5	
産官学連携本部		2		
教育推進・学生支援部		2		
総務部総長室		6 (英2)		
京都大学生生活共同組合 学生委員会		1		
アートサイエンスユニット		4 (英1)		
広報課			1	
デザインスクール	1			
国際交流推進機構			1	

その他 ● 渉外部広報・社会連携推進室 … 入学式・総長式辞 (27)、京都大学大学紹介 (日1, 英1, 中1, 韓1)  
● 学務部 … ジュニアキャンパス紹介 (8)



### (3)OCWのオンライン申し込みフォームの作成

2016年度、新たにOCWのオンライン申し込みフォームを作成しました。これにより、OCWの申し込みや、関連資料の提出がウェブ上で行えるようになりました。

また、スムーズなコンテンツ作成を目指すため、OCWの申し込み期限を、原則として、「通常講義」については、授業開始の2週間前（2017年度前期分のご依頼は2017年3月27日、2017年度後期分は2017年9月19日）まで、「最終講義」・「公開講義」・「国際シンポジウム」等については、開催日の3カ月前までと設定し、それを明示しました。

(酒井 博之・土佐 尚子)

必須項目に記入していただければ、OCWの申し込みが行えます。



OCWスタッフによる撮影希望の場合  
撮影希望日などの詳細が記入できます



撮影希望しない場合  
配信希望コンテンツについての詳細を記入できます。



関連資料をアップロードできます。





OCWの申し込みフォーム

## 2. 大規模オープンオンライン講義(MOOC)

### (1) 京都大学におけるMOOC

京都大学は、MOOC(Massive Open Online Courses:大規模オープンオンライン講義)プラットフォームのedX(<https://www.edx.org>)を通じ、全世界に向けて英語による無償のオンライン講義を配信しています。OCWと異なり、MOOCは大学の講義と同様に、開講期間中に毎週講義コンテンツが追加され、課された問題や試験に解答しながら、一定の成績を満たした受講者<sup>1</sup>には修了証が発行される点が特徴で、高等教育の新しい講義提供方法として世界的に大きな注目を集めています。edXは、ハーバード大学とマサチューセッツ工科大学が中心となり設立された、世界トップクラスの大学や教育機関で構成されるMOOCの大学コンソーシアムで、京都大学は世界トップレベル50校から成るチャーター校として日本で初めて参加し、「KyotoUx」という名称で講義を配信しています(図1)。

本センターはMOOCの制作、運用、分析・評価を担当しており、2016年度は8講義を開講しています(表1)。KyotoUxのFacebookページ(<https://www.facebook.com/kyotoux/>)にも、配信講義に関する最新情報を随時提供していますので、是非ご覧ください。

注1:受講者が修了証を得るためには有償(現在は\$49)のVerified Trackに登録する必要があります。

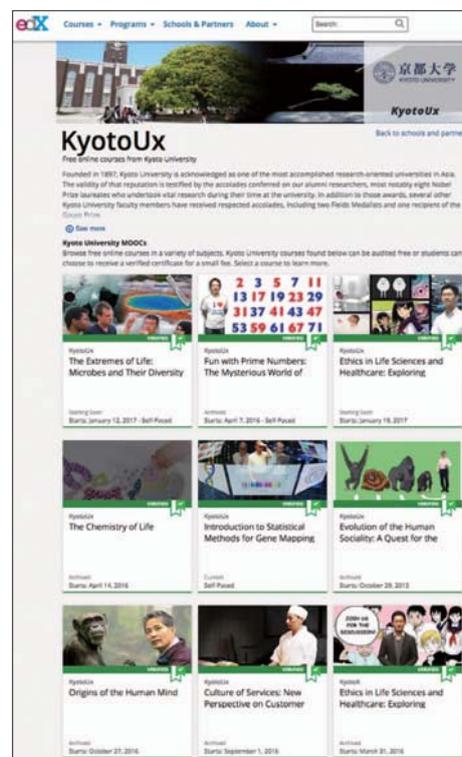


図1 edXのサイト(KyotoUxからの提供講義)

表1 2016年度開講講義				
開講時期	講義名	講義担当者	配信期間*	備考**
4月7日～8月31日	Fun with Prime Numbers: The Mysterious World of Mathematics	伊藤 哲史 准教授 (理学研究科 数学・数理解析専攻)	4週 Self-paced	JGP 2回目
4月14日～7月28日	The Chemistry of Life	上杉 志成 教授 (物質・細胞統合システム拠点/化学研究所)	15週	3回目
4月11日～2017年2月28日	Introduction to Statistical Methods for Gene Mapping	山田 亮 教授 (医学研究科附属ゲノム医学センター)	4週 Self-paced	JGP 2回目
9月1日～12月22日	Culture of Services: New Perspective on Customer Relations	山内 裕 准教授 (経営管理大学院)	8週 Self-paced	2回目
10月27日～12月1日	Origins of the Human Mind	松沢 哲郎 教授 (高等研究院/霊長類研究所)	5週	
2017年1月12日～7月31日	The Extremes of Life: Microbes and Their Diversity	跡見 晴幸 教授 (工学研究科 合成・生物化学専攻)	4週 Self-paced	JGP 2回目
2017年1月19日～2月23日	Ethics in Life Sciences and Healthcare: Exploring Bioethics through Manga - Part 2	児玉 聡 准教授 (文学研究科 思想文化学専攻)	5週	JGP
2017年3月30日～5月11日 (開講予定)	Introduction to Stochastic Processes: Computer Simulation and Data Analysis	山本 量一 教授 (工学研究科 化学工学専攻)	6週	JGP

\*配信期間欄の“Self-paced”は、開講時にすべての講義コンテンツが公開され、講義終了までに受講者自身のペースで学習を進める講義形態です。

\*\*備考欄の“JGP”はスーパーグローバル大学創成事業「京都大学ジャパングートウェイ(JGP)」からの提供講義です。これらの講義は本事業の助成を受け開講しています。また、回数は再開講を表しています。

## (2)MOOCの制作・運用について

MOOCの制作や開講期間中の運用については、本センターの担当スタッフが支援を行っています。

講義を担当する教員の決定後、本センターの担当スタッフとの打合せを通じ、講義の内容や構成等を決めていきます。講義のタイトルや概要が決まると、講義の内容や魅力を伝える講義紹介ビデオ(図2)を制作しedXから公開します。このビデオは講義開始の数ヶ月前に公開され、講義開始までに受講者を募ります。

講義開始までに、スライド等の教材や問題の作成など講義コンテンツの制作を進めていきます。講義ビデオの撮影や編集や講義で課す課題の作成についても専門スタッフが支援します(図3)。

講義内容や講義担当教員の目的や要望に合わせ、様々な講義素材を制作することも可能です。講義ビデオは主に学内の撮影スタジオで収録しますが、プレゼンテーションスライドを活用できる大型電子パッドや画像合成技術を用いた教材など、多様な教材を作成できます(図4)。また、スタジオ内の撮影だけでなく、実験風景やフィールドワーク、インタビュー、ゲスト講師によるミニ講義、アニメーションの制作など、講義に必要な教材の制作支援も行っています(図5)。

MOOCで扱う小テストや最終試験等の課題は、原則としてCBT(Computer Based Testing)による自動採点が行われます。そのため、これまで大学の中で行ってきた成績評価の方法をそのまま使うことが困難な場合も多くあります。レポート等の自由記述課題を受講者同士で相互に採点するピアアセスメントの利用など、講義の目的に合わせた課題設定の提案も行っています(図6)。

講義中の受講者の学習支援は、主に講義ごとに設置された掲示板を通じて行います。技術面や講義配信システムに関する質問はセンターのスタッフが対応しますが、講義内容の質問については、専門分野の知識を持つTAを雇用し対応します。また掲示板は受講者同士の学び合いや議論・交流の場としても活用されています。

本センターでは、講義の目的と講義素材の組み合わせによる学習効果についても研究し、より教育効果の高い素材の制作を目指しています。



図2 松沢教授の講義紹介ビデオ



図3 専門スタッフによるMOOCの制作支援

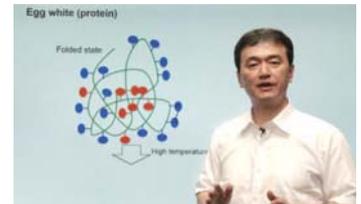


図4 講義スタイルに合わせた講義ビデオの作成

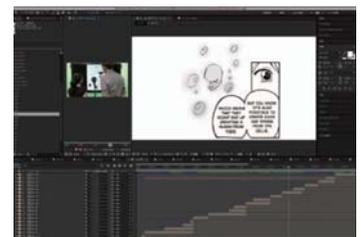


図5 講義素材の制作支援(例:実験風景・アニメーション制作)

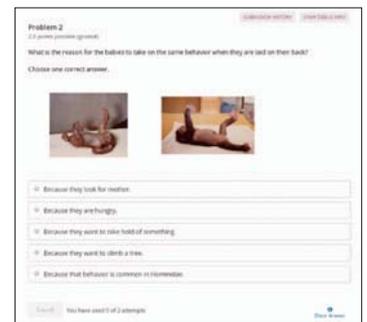
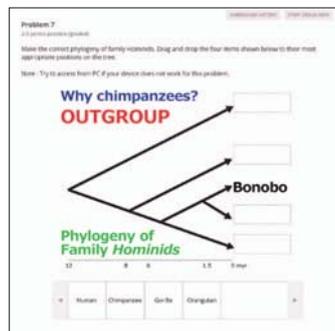


図6 多様な課題作成ツール

**(3)受講者・講義の分析と評価**

本センターでは、MOOCの講義に関わる様々なデータを収集し、受講者の学びや講義の活用に関する研究を行っています。

MOOCのプラットフォームであるedXからは、受講者のデモグラフィックデータに加えて、課題への取り組み、講義ビデオの視聴、掲示板の閲覧や投稿といった受講中の学習履歴が提供されます。本センターでは富士通株式会社と共同し、こうしたデータの分析・可視化を進めています。分析結果はコースごとにCourse Reportとしてまとめ、コースを配信した先生へフィードバックしています(図7)。

また、本センターでは講義の提供を開始した週と最終週にオンライン調査を行い、受講者の受講動機や既存知識、講義の満足度などの把握にも努めています。これらのデータを用いて、学習者がMOOCの講義をどのように活用しているのか、どのような講義が受講者の学びに繋がるのかといった観点から分析・評価を進めています。



図7 Course Reportの構成例

**(4)MOOCを使った教育展開**

作成したMOOCは様々な教育展開が可能です。たとえば、学内向け講義の準備教材や補足教材としての活用や、海外の大学への教材提供にも利用可能です。また、幅広い受験生確保のためのアウトリーチ教材としても活用できます。

例えば、The Chemistry of Lifeを配信した上杉志成教授は、2014年度、2015年度に引き続き、同時期に京都大学で開講した「生命の有機化学」においてMOOCを用いた反転授業を行いました(図8)。上杉志成教授は、京都大学以外の、海外の大学においても同様に反転授業を実施しています。

2016年度の「生命の有機化学」では、上杉志成教授にご協力いただき、受講者を対象とした調査の実施や、授業の様子を観察をさせていただきました。反転授業という枠組みの中で、日本人大学生は、英語で配信されたMOOCをどのように活用するのかという観点から分析を行っています(図9)。こうした研究を通じて、グローバルMOOCを活用した反転授業の効果的な授業デザインに関する知見を提供することを目指しています。

引き続き、本センターではMOOCの更なる活用を目指し、幅広い教育展開について調査、研究を進めていく予定です。

(酒井 博之・岡本 雅子・後藤 崇志)



図8 上杉志成教授の行った反転授業の枠組み

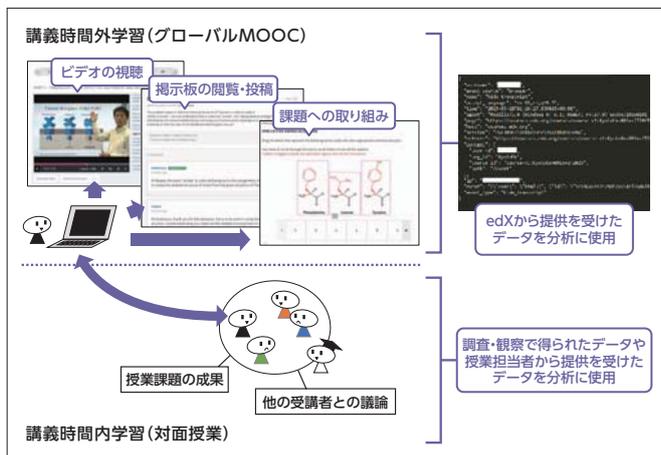


図9 反転授業でのデータの収集・分析の枠組み



### 3. 教育コンテンツ活用推進委員会

#### (1)委員会について

2015年度より、オープンコースウェアの推進と運用に関わる業務が、情報環境機構から本センターに移管され、また本センターがMOOCを活用した教育の推進と運用に関わる業務を担うことになったことに伴い、これまでの情報環境機構オープンコースウェア運用委員会に代わり、本センター内に新たに教育コンテンツ活用推進委員会を立ち上げ、オープンコースウェアとMOOCの活用推進と運用及びサービスに係わる下記の事項の協議・検討、連絡及び調整を行っています。

1. オープンコースウェア及びMOOCを活用した教育の推進に係る企画
2. オープンコースウェア及びMOOCの教育コンテンツの収集
3. オープンコースウェア及びMOOCに係るシステムの運用及び維持管理に関する事項
4. オープンコースウェア及びMOOCの教育コンテンツの活用及び普及に関する事項

本委員会は、授業科目を提供する全ての部局や情報環境機構・学術情報メディアセンター等の代表者で委員が組織されています。

2016年度は、2016年5月30日、10月17日、2017年1月23日と3回の会議が開催され、オープンコースウェア及びMOOCの利用や、ICTを活用した教育を推進するためのポータルサイト(CONNECT)の企画について等の議論がなされました。

「OCW・MOOC等のインターネットを活用した教育の推進」は、京都大学における教育の質的転換を図るための方略として、将来構想や第3期中期における大学の機能強化の方向性に於じた取組としても掲げられております。京都大学ならびに各部局の教育のさらなる発展のために、引き続き、本委員会の活動を通じてもご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。



## (2)MOOCワークショップ

10月17日、教育コンテンツ活用推進委員会主催による、MOOCに関するワークショップ「教育の最先端：MOOCって何？～その利用法と実践ノウハウまで～」が京都大学の教職員を対象に開催されました。

名 称	教育の最先端：MOOCって何？～その利用法と実践ノウハウまで～
日時・会場	10月17日(月) 12:00～13:00、吉田南1号館201号室

### プログラム:

司会 田口 真奈(高等教育研究開発推進センター准教授)

#### 【第1部】MOOC及びKyotoUxの説明

- 酒井 博之(高等教育研究開発推進センター准教授)

#### 【第2部】MOOCで講義を配信された先生の体験談と質疑応答

- 伊藤 哲史(理学研究科准教授)
- 児玉 聡(文学研究科准教授)

#### 【第3部】全体ディスカッション



ワークショップのちらし

本ワークショップでは、MOOCに関する基礎的な情報から実際にMOOCを世界に配信した教員の体験談まで、講義を提供した教員や制作スタッフがMOOCに関する知見やノウハウを提供し、参加者の疑問に直接答える機会となりました。教育コンテンツ活用推進委員会の委員の方々を中心に、MOOCに関心のある約30名の教職員が集い、意見交換が行われました。

第1部では、MOOCの基本情報に加え、京都大学がこれまで配信してきた講義の紹介と、その制作から配信までのプロセス、データ分析・フィードバックについての説明がありました。また、MOOCを反転授業などで活用した新たな取り組みについても紹介されました。続く第2部では、MOOCで講義を配信された理学研究科の伊藤哲史先生と文学研究科の児玉聡先生より、ご自身の体験談が語られました。MOOCという新たな講義形式に対して教材を準備する際の苦労や工夫、多様な受講者からのフィードバックが得られることへの驚きなど、実際にMOOCを通して得られた経験が参加者と共有されました。最後の全体ディスカッションでは、課題の出し方や掲示板上でのやりとりについて複数の質問があり、伊藤哲史先生、児玉聡先生から実際の経験を踏まえての回答がありました。また、担当する教員へのインセンティブや、授業評価の方法などについても質問があり、活発な意見交換が行われました。

(酒井 博之・田口 真奈)



ワークショップの様子

## 4. MOST(オンラインFD支援システム)

### (1)MOSTについて

MOST (Mutual Online system for Teaching & Learning) は、本センターが運用するオンラインFD支援システムです(図1)。本システムは、全国の大学の教職員、将来大学教員を目指す大学院生を対象として運営されています。2009年11月の提供開始以来、2016年1月時点で、登録者数828名、スナップショット数3,141件、コミュニティ数100件となっています。

MOSTの「MOSTギャラクシー」内では、授業改善や教育改善・FDに関する実践事例が200以上公開されており、誰でも自由にアクセスでき、自身の授業やFDの取り組みに活かすことができます。後述のMOSTフェローの活動成果であるコースポートフォリオ(授業改善のためのポートフォリオ)や関西地区FD連絡協議会の加盟校による組織的FD活動に関するスナップショットを中心に、今後も公開コンテンツの充実を図ります。

MOSTは、京都大学のLMS(学習マネジメントシステム)であるPandAと同じプラットフォーム(Sakai)を採用しており、京都大学の教職員や大学院生であれば直感的に操作することができます。MOSTの登録者は、マルチメディア利用によるポートフォリオ制作ツール(KEEP Toolkit)を使って、スナップショットと呼ばれるポートフォリオを手軽に作成・共有・公開できます。

### (2)MOS宝

2015年度、新たにMOSTのツールの一つとして、MOS宝(モストレジャー)を開発、公開しました(図2)。MOS宝は、大学での授業改善や教育改善のためのノウハウやツール、アイデアを他の教員がすぐに使えるような形で共有するためのサイトです。MOSTユーザーであればコンテンツが作成でき、作成されたコンテンツは誰でも閲覧可能です。

日々の実践の中で得た実践知を投稿、閲覧、相互評価することができ、MOS宝に投稿されたコンテンツは、既存のMOSTコンテンツであるスナップショットとリンクすることができます。このことにより、専門領域や対象学年が異なる場合でも教育に関する実践知を共有することが期待できます。



図1 MOST (<https://most-keep.jp>)



図2 MOS宝 (<https://most-keep.jp/treasure/>)

### (3) MOSTフェローシッププログラム

本センターでは、MOSTの活動を推進・活性化させるため、全国の大学教員を対象とし、MOSTを利用した授業実践の見直しや教育改善の活動に取り組む「MOSTフェローシッププログラム」を2011年度に開始しました。2016年度は、第5期MOSTフェローを募集し、選定された9名が活動を進めています。MOSTフェローに関する情報は、以下のURLよりご覧になれます。

▶[http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/most\\_fellow/](http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/most_fellow/)

MOSTフェローは、1年間かけて、対面でのミーティングやMOSTを利用することで、フェロー同志で活動のプロセスや成果を共有しながら、各自の教育実践をよりよくするとともに、教員コミュニティとしての成長も目指します。年度末の3月に、(1)大学教育研究フォーラムでの発表、(2)自身の取り組みのスナップショット(コースポートフォリオ)の作成と公開、の2点が本プログラムの活動成果となります。この間に行われる2度の対面ミーティングについて、以下に紹介します。

#### ①第1回ミーティング

2016年3月18日に第1回ミーティングが京都大学で開催されました。このミーティングでは、各フェローの自己紹介や1枚の画像を提示しながらの実践紹介を行い、活動の第一歩を踏み出します。

ミーティング終了後、第4期MOSTフェローの修了式が行われ、本プログラムを修了した9名のMOSTフェローに修了証が授与されました。第4期MOSTフェローの成果であるスナップショットは以下のURLで閲覧可能です。

▶[https://most-keep.jp/most/gallery-most\\_fellow\\_04/](https://most-keep.jp/most/gallery-most_fellow_04/)

修了式の後には、歴代フェローも合流し、第5期MOSTフェローの教育上の取り組みに関するアピールタイムにおいて、選定したテーマや改善したい内容、そのきっかけや現状と課題などについて情報が共有され、活発な議論や意見交換が行われました。

#### ②第2回ミーティング(合宿)

2016年8月26日～27日、京都大学吉田泉殿及び吉田南1号館において、第2回ミーティングが合宿形式にて開催されました。この合宿では、前期に取り組んだ各自の授業実践について、作成途上のコースポートフォリオ等を用いて活動報告が行われました。この合宿には、歴代フェローも参加し、期を越えた交流がなされました。

### (4) MOSTフェロー発表会

第22回大学教育研究フォーラムにおいて、MOSTフェロー発表会「MOSTお宝鑑定団」が実施されました。このセッションは、歴代MOSTフェローの先生方が中心となり企画されたもので、歴代フェローが、実践の中から得られたMOS宝(教育改善のアイデアや手法)を紹介しました。また、鑑定士の一人として北野正雄教育担当理事・副学長も参加し、MOS宝に対する評価をコメントしていただきました。

MOSTフェローシッププログラムは、今後も継続すべく準備を進めており、3月の第23回大学教育研究フォーラムの翌日に第6期の第1回ミーティングを予定しています。学内教員からの応募もお待ちしております。

(岡本 雅子・田口 真奈・酒井 博之・飯吉 透)



第2回ミーティング(合宿)の様子



「MOSTお宝鑑定団」の様子

## 5. ICT活用教育のためのポータルサイト(CONNECT)

### (1)CONNECTとは

CONNECT(CONtents for Next Education and Communication with Technology)とは、京都大学におけるICTを活用した教育を推進するためのポータルサイトです。

本サイトでは、京都大学のICTを利用した教育コンテンツ(MOOC、OCW、講義ビデオ、教材等)を制作・活用するための情報を提供しています。

現在は、MOOCやOCWの制作方法や、さまざまなテクノロジーをもちいて新しい学びを展開する学内事例などを紹介しています。今後、さらに学内事例を増やすとともに、国内外の大学のICT活用教育の動向などもわかりやすく紹介することで、ICTを活用した教育を行いたい先生方や学内組織に適切な支援情報を提供することをめざします。

なお、本サイトの制作・運用は、教育コンテンツ活用推進委員会(p.22~23参照)の協力を通じ、各部局からの意見・アイデアを反映しながら進められています。

### (2)CONNECTの各コンテンツ

#### ● ホームページ

CONNECTのホームページは、情報をシンプルに分かり

やすく見せる1カラム構成にしています。1カラム構成はスマートフォンやタブレット端末でもレイアウトが崩れずに閲覧できるというメリットもあります。また、CONNECTは日英の2言語に対応しており、外国人教員に向けても情報を発信しています。

#### ● Projects

Projectsでは、京都大学のICTを活用した教育プロジェクトについての情報を掲載しており、現在MOOC、OCW、PandA、MOSTの各プロジェクトを取り上げています。

プロジェクトごとに詳細ページを設け、各プロジェクトの概要に加え、活用事例、作成手順、関連イベント、プロジェクトの成果物、プロジェクトのメリットなど、関連するコンテンツを網羅的に紹介しています。

#### ● Topics

Topicsでは、京都大学における教育コンテンツを活用した事例や、関連するイベントなどを記事形式で読みやすく紹介しています。具体的には、学内で教育コンテンツを制作し教育に活用されている先生方のインタビューや、ICT活用教育関連イベントの開催報告などがあります。

#### ● How to

How to では、MOOCとOCWのコンテンツの作成手順を、ステップに分けて紹介しています。コンテンツを作成するにあたって必要となる作業を詳述するとともに、それぞれのステップで必要となる書類や関連資料、わかりにくい用語についてはその解説をリンクで示しており、作成のプロセスが把握しやすくなっています。

#### ● 何度も訪れたいくなる仕掛け

CONNECTでは、京都大学の先生方に何度も訪れていただけるよう、役に立って、読みやすく、また楽しいということを基本コンセプトとして作成しています。

その一環として、おすすめ情報がランダムにリンクされるコン活絵馬や、質問に回答していくとおすすめのツールやコンテンツを紹介してくれるコン活診断などのインタラクティブにコンテンツを紹介する仕掛けを施しています。

なお、本ポータルサイトは誰でも閲覧できますが、学内教職員のみが閲覧できる学内限定コンテンツも今後充実させていく予定です。

(田口 真奈・奥本 素子・鈴木 健雄)

